Cisco UCS Manager Plug-in for VMware vSphere HTML Client ユーザ ガイド、リリース 3.x

初版：2018 年 9 月 28 日

最終更新：2020 年 4 月 22 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

© 2018–2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

第 1 章 概要 1

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client について 1

システム要件 1

第 2 章 プラグインのインストールおよび UCS ドメインの登録 3

ユーザの権限 3

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のインストール 4

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のアップグレード 6

UCS ドメインの登録 6

第 3 章 プラグインを使用した情報の表示 9

UCS ドメインの詳細の表示 9

シャーシの詳細の表示 12

ファブリック インターコネクトの詳細の表示 13

ESXi 以外のサーバ詳細の表示 14

ESXi サーバ詳細の表示 16

ファブリック エクステンダの詳細の表示 18

ファームウェア パッケージ、タスク、およびホスト ファームウェアの詳細の表示 19

第 4 章 プラグインを使用したアクションの実行 21

プラグインを使用したアクションの実行 21

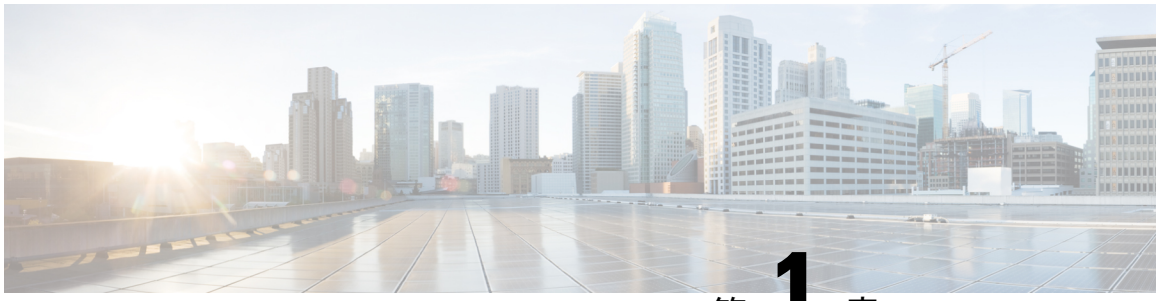
ESXi および ESXi 以外のサーバのアクション： 22

ESXi または ESXi 以外のサーバに対するサービス プロファイルの作成 22

BIOS ポリシーの管理 24

サービス プロファイルとサーバとの関連付け 24
ホスト ファームウェア パックの管理 25
ESXi または ESXi 以外のサーバからのサービス プロファイルの関連付け解除 26
ESXi サーバの KVM コンソールの起動 27
ESXi サーバの UCSM ユーザ インターフェイスの起動 27
サービス プロファイル テンプレートのアクション 28
サービス プロファイル テンプレートのホスト ファームウェア パックの管理 28
サーバ プールの管理 28
テンプレートからのサービス プロファイルの作成 29
サービス プロファイルのアクション 30
サービス プロファイルのホスト ファームウェア パックの管理 30
保留アクティビティの確認 30
ファームウェア管理のアクション 31
ファームウェア パッケージのアップロード 31
ホスト ファームウェア パックのパッケージ バージョンの変更 32
アップロードしたタスクの削除 34
ファームウェア パッケージの削除 35
UCS ドメインのアクション 35
UCS ドメイン インベントリのリロード 35

第 5 章 **Cisco UCS Provider for Proactive High Availability （HA）の使用 37**
Cisco UCS Provider for Proactive HA 37
Cisco UCS プロバイダーの登録 38
Cisco UCS プロバイダーの有効化 39
Cisco UCS プロバイダーの登録解除 40
Cisco UCS 障害状態の変更 40



第 1 章

概要

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client について （1 ページ）
- システム要件 （1 ページ）

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client について

Cisco UCS Manager プラグインは VMware vSphere HTML Client のプラグインです。このプラグインにより、仮想化管理者は Cisco UCS の物理インフラストラクチャを表示、管理、モニタリングすることができます。プラグインは、HTML Client で UCS ハードウェア インベントリの物理的な状態を表示します。プラグインを使用して、次のタスクを実行することができます。

- Cisco UCS 物理階層を表示する
- インベントリ、インストール済みファームウェア、障害、電力および温度の統計情報を表示する
- ESXi ホストを物理サーバにマッピングする
- B シリーズおよび C シリーズ サーバのファームウェアを管理する
- サーバの VIF パスを表示する
- Cisco UCS Manager GUI を起動する
- UCS サーバの KVM コンソールを起動する
- ロケータ LED の既存の状態を切り替える

システム要件

システムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- .NET Framework 4.5 以降
- VMware PowerCLI 5.1 以降をインストールして登録ツールを実行する
- VMware vCenter 6.7 以降をインストールする

  VMware vCenter 6.7 の場合、vCenter と HTML クライアントを同じマシンにインストールします。

  VMware vSphere HTML クライアントの前提条件については、次を参照してください。
  http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2005083

VMware vSphere HTML クライアントのリリース

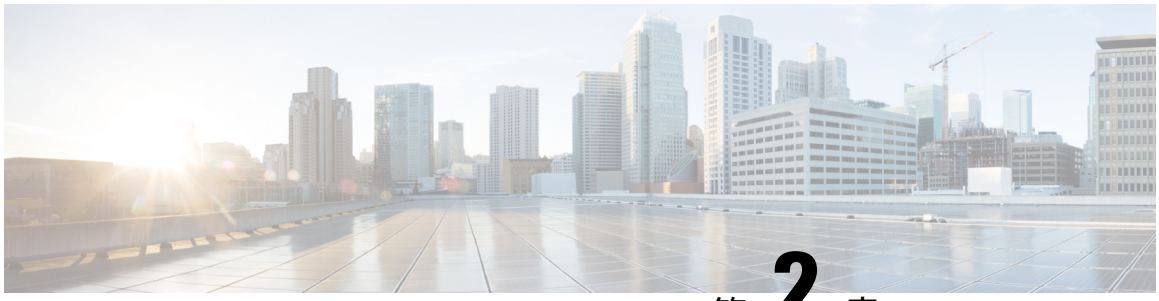
Cisco UCS Managerプラグインは次の vSphere HTML クライアントのリリースと互換性があります。

- リリース 6.7 以降

サポートされる Cisco UCS Manager リリース

Cisco UCS Manager プラグインは次の UCS Manager のリリースと互換性があります。

- リリース 3.2 以降



第 2 章

プラグインのインストールおよび UCS ドメインの登録

この章は、次の項で構成されています。

- ユーザの権限 （3 ページ）
- Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のインストール （4 ページ）
- Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のアップグレード （6 ページ）
- UCS ドメインの登録 （6 ページ）

ユーザの権限

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client を使用すると、Cisco UCS ドメインを登録および管理できます。Cisco UCS Manager プラグインをインストールするときに、UCS Manager のユーザアカウントを使用して個別にUCS ドメインを登録します。実行できるアクションは、UCS ドメインの登録時に使用した UCS Manager のユーザ権限に応じて決まります。また、各プラグイン アクションは Cisco UCS Manager と同じ権限をサポートします。

たとえば、admin権限を使用してUCS ドメインを登録した場合、プラグインを使用してそのドメインに対してアクションを実行できます。サーバ、ファームウェア、UCS ドメイン、サービス プロファイル、サービス プロファイル テンプレートに対してさまざまなアクションを実行できます。一方、読み取り専用権限を使用して UCS ドメインを登録した場合、Cisco UCS Manager GUI を起動し、登録したドメインを表示することができます。

Cisco UCS Manager プラグインにログインすると、自分が登録したドメインを表示できます。異なる vCenter ロールを持つユーザ、または UCS ドメインを登録したユーザが登録した UCS ドメインは、編集または登録解除することができません。同じ vCenter ロールを持ち、UCS ドメインを登録したユーザのみが、プラグインの編集または登録解除を行うことができます。

ただし、拡張権限があり、登録されたドメインが公開表示可能である場合、他のユーザが登録したドメインを表示することができます。

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のインストール

始める前に

- Flex でプロアクティブ HA をすでに登録している場合は、登録を解除してから、次の手順を実行します。
- プラグイン パッケージが HTTP または HTTPS サーバにホストされていること。プラグイン ZIP ファイルの HTTP または HTTPS URL が、vCenter サーバとプラグインの登録元であるマシンの両方から到達できることを確認します。
- すべての HTMLクライアント ブラウザ セッションを閉じます。

手順

ステップ 1 Cisco.com の Cisco UCS 管理パートナー エコシステム ソフトウェアのダウンロード サイトから、Cisco UCS Manager プラグインと、最新の登録ツールの zip ファイルをダウンロードします(バージョンv1.2.0 以降)。

ファイルはローカル ダウンロード フォルダに保存されます。

ステップ 2 登録ツールを解凍し、ダブルクリックして起動します。Cisco UCS プラグインの登録ツール画面が表示されます。

ステップ 3 新しいプラグインを登録するには、次のフィールドを入力します。

（注） 再登録の場合は、次のフィールドがすでに入力されています。

- [IP/ホスト名（IP/Hostname）] : vCenter サーバの IP またはホスト名
- [ユーザ名（Username）] : vCenter サーバのユーザ名
- [パスワード（Password）] : vCenter サーバのパスワード
- [プラグインの場所（Plugin location）] : プラグイン ZIPファイルの HTTPS または HTTP URL。たとえば、https://10.1x.1x.1/plugins/ucs/ucs-vcplugin-1.0.1.zip

（注） UCS Manager プラグインの登録を解除する場合は、[登録解除（Unregister）] プラグイン ラジオボタンをクリックし、フィールドに入力します。

Flex と HTML の両方をインストールすることはできません。これらの一方のみをインストールしてください。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

重要 プラグインがHTTP URL上にホストされている場合、次のアクションを実行するよう求められます。

「プラグインが HTTP URL 上にホストされている場合、「webclient.properties」という名前の設定ファイルを変更し、「allowHttp=true」を追加する必要があります。（If the plugin is hosted on an HTTP URL, a configuration file named "webclient.properties" must be modified to add "allowHttp=true."）

vSphere HTML/Web クライアント 6.x 以降のリリースでは、ファイルはデフォルトで次の場所にあります。

HTML 6.x:

```
Windows: C:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-ui\

VCSA: /etc/vmware/vsphere-ui
```

Flex 6.x:

```
Windows : C:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-client

VCSA : /etc/vmware/vsphere-client
```

Flex 5.x:

```
Windows :  C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client

VCSA : /var/lib/vmware/vsphere-client
```

この変更後、vSphere HTML クライアント サービスを再起動する必要があります。

（注） 再登録の場合は、次のメッセージが記載された [登録済み（Already Registered）] 警告ダイアログ ボックスが表示される場合があります。「 Cisco UCS プラグイン 3.xはすでに登録されています。（Cisco UCS plug-in 2.x is already registered.）プラグイン ファイルがすでにダウンロードされている場合は、そのプラグイン ファイルが手動で削除され、vSphere HTML クライアント サービスが再起動されるまで、プラグイン ファイルが再度ダウンロードされることはありません。」

メッセージを確認し、[OK] をクリックして続行します。

ステップ 5 HTML クライアント サービスを再起動します。

（注） エラーが発生した場合は、Webブラウザセッションを再起動します。引き続きエラーが発生する場合は、HTML クライアント サービスを再起動します。

Cisco UCS Manager プラグインが正常に登録されています。

Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のアップグレード

手順

ステップ 1 Cisco.com の Cisco UCS 管理パートナー エコシステム ソフトウェアのダウンロード サイトから、Cisco UCS Manager プラグインと登録ツールの zip ファイルをダウンロードします。

ファイルはローカル ダウンロード フォルダに保存されます。

ステップ 2 Cisco UCS Provider for Proactive HA が登録されている場合は、その登録を解除します。

Cisco UCS プロバイダーの登録を解除する方法の詳細については、Cisco UCS プロバイダーの登録解除 （40 ページ）を参照してください。

ステップ 3 解凍した .exe ファイルをダブルクリックして、登録設定ファイルを起動します。

ステップ 4 Cisco UCS Manager プラグインがすでにインストールされている場合、プラグインをアップグレードするよう求められます。 アップグレードを確認し、インストールを続行します。

Cisco UCS Manager Plug-In のインストール方法の詳細については、Cisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のインストール （4 ページ）を参照してください。

ステップ 5 HTML クライアント サービスを再起動します。

ステップ 6 Cisco UCS プラグインをインストールしたら、Cisco UCS Provider for Proactive HA を登録します。

Cisco UCS Provider for Proactive HA の登録方法の詳細については、Cisco UCS プロバイダーの登録 （38 ページ）を参照してください。

（注） どのバージョンの Cisco UCS Manager プラグインからのダウングレードもサポートされていません。ただし、プラグインをダウングレードするには、実行中のバージョンを登録解除し、使用するバージョンを登録し、vSphere HTML クライアント サービスを再起動します。

Flex から HTML への直接アップグレードはサポートされていません。最初に Flex プラグインを登録解除してから、HTML プラグインを登録する必要があります。

UCS ドメインの登録

vSphere HTML クライアントを使用して、UCS ドメインを登録することができます。詳細の編集、登録の解除、以前に登録した UCS ドメインの再登録を行うことができます。

（注） 読み取り専用権限を使用して UCS ドメインを登録すると、サービス プロファイル、サービス プロファイルテンプレート、およびファームウェア管理に関連するアクションをプラグインを使用して実行することはできません。また、admin 権限を持っていない限り、別のユーザによって登録された UCS ドメインを表示または編集することもできません。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] タブで、[Cisco UCS] をダブルクリックします。
Cisco UCS Management Center ビューが表示されます。

ステップ 3 [登録（Register）] をクリックします。
[UCS ドメインの登録（Register UCS Domain）] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 次を入力します。

- [UCS ホスト名/IP（UCS Hostname/IP）] : UCS ドメインの IP アドレスまたはホスト名。
- [ユーザ名（Username）] : UCS ドメインのユーザ名。

  （注） LDAP 認証については、ユーザ名を *ucs-domainname\username* の形式で入力します。

- [パスワード（Password）] : UCS ドメインのパスワード。
- [Port]：ポート番号。
- [SSL]：Cisco UCS Manager へのセキュア接続を使用する。
- [すべてのユーザに表示（Visible to All Users）] : このドメインをすべてのユーザに表示するかどうか。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

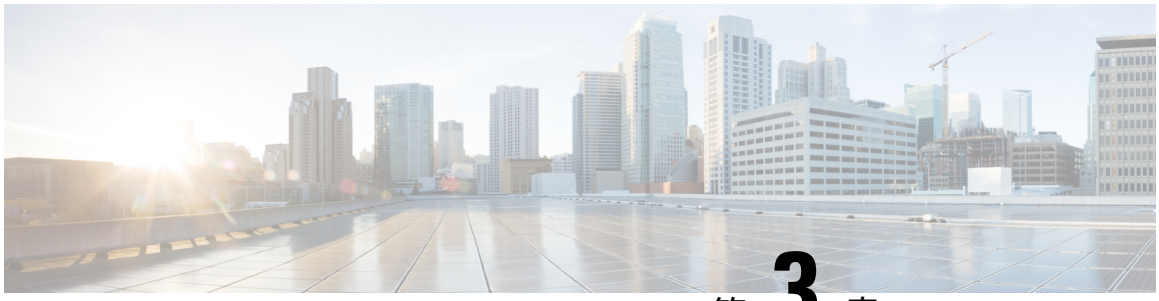
（注） 証明書を受け入れるように求められる場合があります。受け入れて登録を続行します。

UCS ドメインが登録され、登録された UCS ドメインのリストに表示されます。

Cisco UCS Management Center には次のオプションも用意されています。

ボタン	説明
[登録解除（Unregister）]	UCS ドメインを登録解除できます。
[編集（Edit）]	UCS ドメインを編集できます。

ボタン	説明
[再登録（Re-register）]	UCS ドメインを再登録できます。



第 3 章

プラグインを使用した情報の表示

この章は、次の項で構成されています。

- UCS ドメインの詳細の表示 （9 ページ）
- シャーシの詳細の表示 （12 ページ）
- ファブリック インターコネクトの詳細の表示 （13 ページ）
- ESXi 以外のサーバ詳細の表示 （14 ページ）
- ESXi サーバ詳細の表示 （16 ページ）
- ファブリック エクステンダの詳細の表示 （18 ページ）
- ファームウェア パッケージ、タスク、およびホスト ファームウェアの詳細の表示 （19 ページ）

UCS ドメインの詳細の表示

この項では、Cisco UCS Manager プラグインを使用して登録済みの Cisco UCS ドメインの詳細を表示する手順について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。
ウィンドウの右ペインに、次の UCS ドメイン情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	[要約（summary）] タブには次の情報が表示されます。 • UCS ドメインに関するシステムに固有の概要レベルの情報。ESXi サーバおよび ESXi 以外のサーバの数、仮想マシンの数、仮想 IPv4 アドレスなど。 • [障害（Faults）] セクションには、障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。
[モニタ（Monitor）] タブ	障害に関する情報が表示されます。

名前	説明

[設定 (Configure)]タブ	[設定 (Configure)] タブには、以下の情報が表示されます。
	• サービス プロファイル、サービス プロファイルテンプレート、サーバ プール、ホスト ファームウェア パッケージ、ファームウェア アップロード タスク、ファームウェア パッケージ バンドル、および関連情報がそれぞれのタブに表示されます。
	• [サービスプロファイル（service profile）] タブでサポートされる次のアクションが表示されます。
	  • 保留アクティビティ
	  • ホスト ファームウェア パックの管理
	• [サービスプロファイルテンプレート（service profile template）] タブでサポートされる次のアクションが表示されます。
	  • ホスト ファームウェア パックの管理
	  • サーバ プールの管理
	  • テンプレートからのサービス プロファイルの作成
	• [ファームウェア（firmware）] タブでサポートされる次のアクションが表示されます。
	  • パッケージ バージョンの変更
	  • アップロード ファームウェア
	  • アップロード タスクの削除
	  • ファームウェア パッケージの削除

[その他のオブジェクト(More Objects)] タブ	シャーシ、ラック マウント、ドメインに関連付けられているファブリック インターコネクトがそれぞれのタブに表示されます。

シャーシの詳細の表示

次の項では、Cisco UCS Manager プラグインを使用してシャーシ関連情報を表示する方法について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 シャーシの詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 詳細を表示するシャーシをリストから選択します。
ウィンドウの右ペインに、次のシャーシ情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	[要約（summary）] タブには次の情報が表示されます。 • 概要レベルのシャーシ情報とハードウェア固有の情報（全体のステータスなど）、ESXi サーバおよび ESXi 以外のサーバの数、仮想マシンの数など。 • 熱、電力および設定の状態に関する情報を含むシャーシのステータス グリッド。 • 障害の重大度に基づいて分類された障害数。
[モニタ（Monitor）] タブ	障害の情報と電力統計情報を表示します。

名前	説明
[設定 (Configure)]タブ	[設定 (Configure)] タブには、以下の情報が表示されます。 • 関連付けられている PSU と関連情報が [PSU] タブに表示されます。 • 関連付けられている入力/出力モジュールと関連情報が [IOモジュール（IO Modules）] タブに表示されます。 • ファン モジュールと関連情報が [ファン（Fan）] タブに表示されます。
[他のオブジェクト (More Objects)] タブ	ESXi サーバと ESXi 以外のサーバ、シャーシが関連付けられている UCS ドメインがそれぞれのタブに表示されます。

ファブリック インターコネクトの詳細の表示

次の項では、Cisco UCS Manager プラグインを使用してファブリック インターコネクト関連情報を表示する方法について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ファブリックインターコネクト（Fabric Interconnect）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのファブリック インターコネクトのリストが表示されます。

ステップ 6 詳細を表示するファブリック インターコネクトをリストから選択します。
ウィンドウの右ペインに、次のファブリック インターコネクト情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	[要約（summary）] タブには次の情報が表示されます。 • モデル、リーダーシップといった、ファブリック インターコネクトに固有の情報。 • [ステータス（Status）] セクションには、イーサネットまたはファブリック接続モード、全体のステータスなどが表示されます。 • [ファームウェア（Firmware）] セクションには、カーネルのバージョン、システムのバージョン、ブートローダのバージョンなどが表示されます。 • [障害（Faults）] セクションには、障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。
[モニタ（Monitor）] タブ	障害に関する情報が表示されます。
[設定（Configure）] タブ	[設定（Configure）] タブには、次の情報が表示されます。 • 関連付けられている PSU と関連情報が [PSU] タブに表示されます。 • ファン モジュールと関連情報が [ファン（Fan）] タブに表示されます。
[他のオブジェクト (More Objects)] タブ	ファブリック インターコネクトが関連付けられている UCS ドメインがそれぞれのタブに表示されます。

ESXi 以外のサーバ詳細の表示

C シリーズ サーバに関する ESXi 以外のサーバ情報をラック マウントの下に、ブレード サーバに関する ESXi 以外のサーバ情報をシャーシの下に表示することができます。次の項では、ラック マウントまたはシャーシ用の Cisco UCS Manager プラグインを使用して ESXi 以外のサーバ関連情報を表示する方法について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Serverr）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 詳細を表示するサーバをリストから選択します。
ウィンドウの右ペインに、次のサーバ情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	UCS サーバの UUID、関連付けられているサービスプロファイル、シリアル番号、ハードウェアに固有の情報（モデル、コア数、プロセッサ、メモリなど）が表示されます。 次のアクション ボタンもあります。 • [KVMの起動（Launch KVM）]：このボタンをクリックすることで、KVM コンソールを起動できます。 • [UCSMの起動（Launch UCSM）]：このボタンをクリックすることで、Cisco UCS Manager GUI を起動できます。 • [ロケータLEDをオンにする（Turn Locator LED On）]：ロケータ LED のスイッチをオンにします。 • [ロケータLEDをオフにする（Turn Locator LED Off）]：ロケータ LED のスイッチをオフにします。

名前	説明
[設定（Configure）] タブ	[設定（Configure）] タブには、次の情報が表示されます。 • UCS サーバ インベントリ • ファームウェア管理情報 • VIF パス
[モニタ（Monitor）] タブ	障害の情報、電力、および温度統計情報が表示されます。
[その他のオブジェクト(More Objects)] タブ	関連付けられているシャーシまたはラック マウントに関する情報が表示されます。

ESXi サーバ詳細の表示

C シリーズ サーバに関する ESXi サーバ情報をラック マウントの下に、ブレード サーバに関する ESXi サーバ情報をシャーシの下に表示することができます。次の項では、ラック マウントまたはシャーシ用の Cisco UCS Manager プラグインを使用して ESXi サーバ関連情報を表示する方法について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXi サーバ（ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバのリストが表示されます。

ステップ 8 詳細を表示するサーバをリストから選択します。
ウィンドウの右ペインに、次のサーバ情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	ハードウェア、設定、ヘルス ステータスに関連する概要レベルのサーバ情報と Cisco UCS の情報が表示されます。 Cisco UCS の情報には UUID、関連付けられているサービス プロファイル、シリアル番号、アクション ボタンなどが含まれます。次のアクション ボタンもあります。 • [KVMの起動（Launch KVM）]：このボタンをクリックすることで、KVM コンソールを起動できます。 • [UCSMの起動（Launch UCSM）]：このボタンをクリックすることで、Cisco UCS Manager GUI を起動できます。 • [ロケータLEDをオンにする（Turn Locator LED On）]：ロケータ LED のスイッチをオンにします。 • [ロケータLEDをオフにする（Turn Locator LED Off）]：ロケータ LED のスイッチをオフにします。
[設定（Configure）] タブ	[設定（Configure）] タブには、次の情報が表示されます。 • ネットワーク、ストレージ、アラーム定義、タグ、権限、および設定情報といった ESXi サーバ関連の情報がそれぞれのタブに表示されます。 • [Cisco UCS] タブには、UCS サーバのインベントリ、ファームウェアの管理情報、VIF パスが表示されます。
[モニタ（Monitor）] タブ	障害の情報と電力統計情報が表示されます。
[その他のオブジェクト(More Objects)] タブ	シャーシまたはラック マウントに関する関連情報が表示されます。

ファブリック エクステンダの詳細の表示

次の項では、Cisco UCS Manager プラグインを使用してファブリック エクステンダ関連情報を表示する方法について説明します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントを選択します。

ステップ 7 [FEX] をクリックします。
ウィンドウの右ペインに、次のファブリック エクステンダ情報が表示されます。

名前	説明
[要約（Summary）] タブ	ファブリック エクステンダに関連する概要レベルの情報が表示されます。 [要約（summary）] タブには次の情報が表示されます。 • モデル、利用可能なファブリック ポートの合計数、バックプレーン ポートなどのファブリック エクステンダに関する情報。 • [ステータス（Status）] セクションには、電圧、熱、電力などの情報が表示されます。 • [障害（Faults）] セクションには、障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。
[モニタ（Monitor）] タブ	障害に関する情報が表示されます。

名前	説明
[設定（Configure）] タブ	[設定（Configure）] タブには、次の情報が表示されます。 • 関連付けられている PSU と関連情報が [PSU] タブに表示されます。 • 関連付けられている入力/出力モジュールと関連情報が [IOモジュール（IO Modules）] タブに表示されます。 • ファン モジュールと関連情報が [ファン（Fan）] タブに表示されます。
[他のオブジェクト (More Objects)] タブ	ファブリック エクステンダが関連付けられているラック マウントが表示されます。

ファームウェア パッケージ、タスク、およびホスト ファームウェアの詳細の表示

サーバのファームウェアパッケージ、タスク、およびホストファームウェアを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

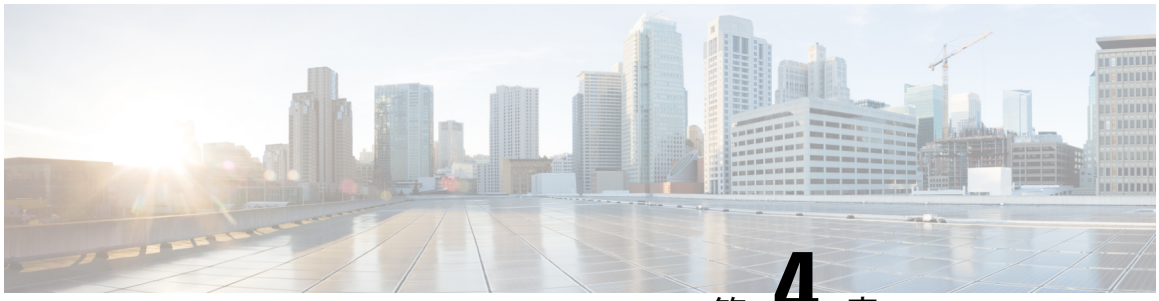
ステップ 4 詳細を表示するドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、[設定（Configure）] [ファームウェア（Firmware）]> の順にクリックします。

[ファームウェア（Firmware）] タブのそれぞれのファームウェア タブに関連する情報を確認できます。

名前	説明
[ホストファームウェアパッケージ（Host Firmware Packages）] タブ	ホスト ファームウェア パッケージの数と関連情報を表示します。

名前	説明
[ファームウェアのアップロードタスク（Firmware Upload Tasks）] タブ	ファームウェア インストール ファイルの数と関連情報を表示します。 [ファームウェアのアップロードタスク（Firmware Upload Tasks）] タブでサポートされる次のアクションが表示されます。 • アップロード ファームウェア • アップロード タスクの削除
[ファームウェアパッケージ（Host Firmware Packages）] タブ	次の情報を表示します。 • ダウンロードしたすべてのファームウェアと関連情報のリスト。 • ファームウェア パッケージの削除アクションのサポート。



第 4 章

プラグインを使用したアクションの実行

この章は、次の項で構成されています。

- プラグインを使用したアクションの実行 （21 ページ）
- ESXi および ESXi 以外のサーバのアクション： （22 ページ）
- サービス プロファイル テンプレートのアクション （28 ページ）
- サービス プロファイルのアクション （30 ページ）
- ファームウェア管理のアクション （31 ページ）
- UCS ドメインのアクション （35 ページ）

プラグインを使用したアクションの実行

Cisco UCS Manager プラグインを使用すると、サーバ、UCS ドメイン、サービス プロファイル、およびサービス プロファイル テンプレートに対してさまざまなアクションを実行できます。実行できるアクションは、サーバとユーザ権限の関連付けの状態に基づいて決まります。アクションを実行する前に、影響分析が実行されます。分析結果に基づいて、アクションのキャンセルまたは続行を促すプロンプトが表示されます。

プラグインを使用して管理できるさまざまなコンポーネントに対して、次のアクションを実行できます。

- **ESXi および ESXi 以外のサーバ**：
  - サーバのサービス プロファイルの作成：ハードウェアまたはテンプレート ベースのサーバ プロファイルを作成できます。
  - BIOS ポリシーの管理：サーバの BIOS ポリシーを変更できます。
  - サービス プロファイルの関連付け：サーバに対してサービス プロファイルを関連付けることができます。
  - ファームウェア ホスト パックの管理：サーバのホスト ファームウェア パックを変更できます。
  - サービス プロファイルの関連付け解除：サービス プロファイルとサーバの関連付けを解除できます。
- **ESXi サーバ**：

- KVM の起動：サーバの KVM コンソールを起動することができます。
- UCSM の起動：登録されているすべての UCS ドメインに対して、Cisco UCS Manager のユーザ インターフェイスを起動することができます。

- **UCS ドメイン**：UCS ドメインのリロード：UCS ドメインの物理インベントリをリロードできます。
- **サービス プロファイル テンプレート**：
  - ホスト ファームウェア パックの管理：サービス プロファイル テンプレートのホスト ファームウェア パックを変更できます。
  - サーバ プールの管理：サーバ プールを変更できます。
  - テンプレートからのサービス プロファイルの作成：テンプレートを使用してサービス プロファイルを作成できます。

- **サービス プロファイル**：ファームウェア ホスト パックの管理：サービス プロファイルのファームウェア ホスト パックを変更できます。
- **ファームウェア**：
  - ファームウェアのアップロード：サーバのファームウェア バンドルをアップロードできます。
  - パッケージ バージョンの変更：ファームウェア パッケージのバージョンをアップグレードまたはダウングレードすることができます。
  - アップロード タスクの削除：ファームウェアのアップロード タスクを削除できます。
  - ファームウェア パッケージの削除：ファームウェアのパッケージ バンドルを削除できます。

ここでは、利用可能なアクションの実行方法について説明します。

ESXi および ESXi 以外のサーバのアクション：

ESXi または ESXi 以外のサーバに対するサービス プロファイルの作成

サービス プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXiサーバ（ESXi Servers）] または [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバまたは ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 サーバを選択して右クリックします。

ESXi サーバの場合、右クリックして [すべてのCisco UCS vCenterプラグインのアクション（All Cisco UCS vCenter Plugin Actions）] を選択します。

ステップ 9 [サーバのサービスプロファイルの作成（Create Service Profile for Server）] をクリックします。
[サーバのサービスプロファイルの作成（Create Service Profile for Server）] 画面が表示されます。

ステップ 10 [サーバのサービスプロファイルの作成（Create Service Profile for Server）] で、次を実行します。

- [組織のサービスプロファイルの作成（Create Service Profile in Organization）]：ドロップダウン メニューから組織を選択します。
- [ハードウェアベースのサービスプロファイル（Hardware Based Service Profile）] または [テンプレートベースのサービスプロファイル（Template Based Service Profile）] を選択します。
- [ハードウェアベースのサービスプロファイル（Hardware Based Service Profile）] を選択した場合、次を入力します。
  - サービス プロファイルの名前。
  - [デフォルトvNICの作成（Create Default vNICs）] または [デフォルトvHBAの作成（Create Default vHBAs）] を選択します。
  - [OK] をクリックします。
- [テンプレートベースのサービスプロファイル（Template Based Service Profile）] を選択した場合、次を入力します。
  - サービス プロファイルの名前。
  - ドロップダウン メニューからサービス プロファイル テンプレートを選択します。
  - [OK] をクリックします。

これにより、サービス プロファイルが作成され、選択したサーバに関連付けられます。

BIOS ポリシーの管理

サーバの BIOS ポリシーを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXiサーバ（ESXi Servers）] または [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバまたは ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 サーバを選択して右クリックします。

ステップ 9 [BIOSポリシーの管理（Manage BIOS Policy）] をクリックします。
[BIOSポリシーの管理（Manage BIOS Policy）] 画面が表示されます。

ステップ 10 [BIOSポリシーの管理（Manage BIOS Policy）] 画面で、ドロップダウン メニューから BIOS ポリシーを選択します。

ステップ 11 [変更の保存（Save Changes）] をクリックします。

ステップ 12 BIOS パラメータを変更するには、[BIOSポリシーのインスタンス（BIOS Policy Instance）] リンクをクリックします。
[BIOSポリシー（BIOS Policy）] 画面が表示されます。

ステップ 13 BIOS パラメータに必要な変更を加えて、[変更の保存（Save Changes）] をクリックします。

（注） BIOS ポリシーを複数のサーバに関連付けることができます。ポリシーを変更した場合、その変更は関連付けられたすべてのサーバに適用されます。

サービス プロファイルとサーバとの関連付け

サービス プロファイルとサーバを関連付けるには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXiサーバ（ESXi Servers）] または [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバまたは ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 サーバを選択して右クリックします。

ステップ 9 [サービスプロファイルの関連付け（Associate Service Profile）] をクリックします。
[サービスプロファイルの関連付け（Associate Service Profile）] 画面が表示されます。

ステップ 10 [サービスプロファイルの関連付け（Associate Service Profile）] 画面で、[使用可能なサービス プロファイル（Available Service Profiles）] または [すべてのサービスプロファイル（All Service Profiles）] を選択します。
サービス プロファイルのリストが表示されます。

ステップ 11 リストからサービス プロファイルを選択し、[OK] をクリックします。
選択したサービス プロファイルがサーバに関連付けられます。

ホスト ファームウェア パックの管理

サーバのファームウェア ホスト パックを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXiサーバ（ESXi Servers）] または [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバまたは ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 サーバを選択して右クリックします。

ステップ 9 [ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] を選択します。
[ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードが表示されます。

ステップ 10 [ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードで、ドロップダウン メニューからファームウェア ホスト パックを選択します。

ステップ 11 [Save Changes] をクリックします。

ESXi または ESXi 以外のサーバからのサービス プロファイルの関連付け解除

サーバからサーバ プロファイルの関連付けを解除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [ラックマウント（Rack Mounts）] または [シャーシ（Chassis）] をクリックします。
UCS ドメインに関連付けられたすべてのラック マウントまたはシャーシのリストが表示されます。

ステップ 6 ラック マウントまたはシャーシを選択します。

ステップ 7 [ESXiサーバ（ESXi Servers）] または [ESXi以外のサーバ（Non ESXi Servers）] をクリックします。
ラック マウントまたはシャーシに関連付けられているすべての ESXi サーバまたは ESXi 以外のサーバのリストが表示されます。

ステップ 8 サーバを選択して右クリックします。

ステップ 9 [サービスプロファイルの関連付け解除（Disassociate Service Profile）] をクリックします。

ステップ 10 [サービスプロファイルの関連付け解除（Disassociate Service Profile）] 画面で、サービス プロファイルを選択し、[OK] をクリックします。

サービス プロファイルがサーバから関連付け解除されます。

ESXi サーバの KVM コンソールの起動

（注） 次の手順はリリース 3.0(x) に対して有効です。

KVM Launch Manager では、Cisco UCS Manager にログインせずに KVM コンソールからサーバにアクセスできます。

サーバの KVM コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 KVM を起動するサーバに移動します。

ステップ 4 サーバを選択し、[KVMの起動（Launch KVM）] をクリックします。

設定されているインバンド管理とアウトオブバンド管理の IP アドレスのリストが表示されます。

ステップ 5 KVM の起動に使用する IP アドレスを選択し、[OK] をクリックします。

ESXi サーバの UCSM ユーザ インターフェイスの起動

Cisco UCS Manager のユーザ インターフェイスを起動するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 左ペインで、[ホストおよびクラスタ（Hosts and Clusters）] をクリックします。
すべてのホストのリストが表示されます。

ステップ 4 登録済みの UCSM ドメインを持つホストを選択します。

ステップ 5 左ペインでサーバを選択し、右クリックして [すべてのCisco UCS vCenterプラグインのアクション（All Cisco UCS vCenter Plug-in Actions）] を選択します。
使用可能なすべてのアクションのリストが表示されます。

ステップ 6 [UCSMの起動（Launch UCSM）] をクリックします。

サービス プロファイル テンプレートのアクション

サービス プロファイル テンプレートのホスト ファームウェア パックの管理

サーバのファームウェア ホスト パックを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右パネルで、[設定 (Configure)] [サービス プロファイル テンプレート(Service Profile Templates)] の順にクリックします。

ステップ 6 サービス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 7 [アクション（Actions）] をクリックし、[ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] を選択します。
[ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードが表示されます。

ステップ 8 [ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードで、ドロップダウン メニューからファームウェア ホスト パックを選択します。

ステップ 9 [Save Changes] をクリックします。

サーバ プールの管理

サーバ プールを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右パネルで、[設定 (Configure)] [サービス プロファイル テンプレート(Service Profile Templates)] の順にクリックします。 >

ステップ 6 サービス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 7 [アクション（Actions）] をクリックし、[サーバプールの管理（Manage Server Pools）] を選択します。
[関連するサーバプール（Associated Server Pools）] ポップアップが表示されます。

ステップ 8 [サーバプールとの関連付け（Associate with Server Pool）] をクリックします。
[サーバプールとの関連付け（Associate with Server Pool）] ポップアップが表示されます。

ステップ 9 それぞれのドロップダウン メニューから、[プールの割り当て（Pool Assignment）]および[サーバプールの資格情報（Server Pool Qualification）] を選択します。

ステップ 10 [OK] をクリックします。

テンプレートからのサービス プロファイルの作成

テンプレートからサービス プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右パネルで、[設定 (Configure)] [サービス プロファイル テンプレート(Service Profile Templates)] の順にクリックします。 >

ステップ 6 サービス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 7 [アクション (Actions）] をクリックし、サービス プロファイルの作成に使用する [テンプレートからのサービスプロファイルの作成（Create Service Profiles From Template）] を選択します。
[テンプレートからのサービスプロファイルの作成（Create Service Profiles From Template）] ポップアップが表示されます。

ステップ 8 プレフィックス、サフィックス、作成するサービスプロファイルのインスタンス数をそれぞれのフィールドに入力します。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

サービス プロファイルのアクション

サービス プロファイルのホスト ファームウェア パックの管理

サーバのファームウェア ホスト パックを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、[設定（Configure][サービスプロファイル（Service Profile）] の順にクリックします。 >

ステップ 6 サービス プロファイルを選択します。

ステップ 7 [アクション（Actions）] をクリックし、[ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] を選択します。
[ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードが表示されます。

ステップ 8 [ファームウェアホストパックの管理（Manage Firmware Host Pack）] ウィザードで、ドロップダウン メニューからファームウェア ホスト パックを選択します。

ステップ 9 [Save Changes] をクリックします。

保留アクティビティの確認

サーバの保留アクティビティを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、[設定（Configure]>[サービスプロファイル（Service Profile）] の順にクリックします。

ステップ 6 [保留アクティビティ（Pending Activities）] をクリックします。
[保留アクティビティ（Pending Activities）] ウィザードが表示されます。

ステップ 7 [保留アクティビティ（Pending Activities）] ウィザードで、再起動をトリガーするサーバに対して [今すぐ再起動（Reboot now）] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ファームウェア管理のアクション

ファームウェア パッケージのアップロード

サーバのファームウェア ホスト パックをアップロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、**[設定（Configure）]** > **[ファームウェア（Firmware）]** > **[ファームウェアのアップロードタスク（Firmware Upload Tasks）]** の順にクリックします。

ステップ 6 [アクション（Actions）] をクリックし、[ファームウェアのアップロード（Upload Firmware）] を選択します。
[ファームウェアバンドルのアップロード（Upload Firmware Bundle）] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 7 [ファームウェアバンドルのアップロード（Upload Firmware Bundle）] ダイアログボックスで、次を入力します。

アクション	説明
[Protocol] フィールド	プロトコルタイプ。次のいずれかになります。 • **FTP** • **TFTP** • **SCP** • **SFTP**

アクション	説明
[サーバ（Server）] フィールド	ファームウェア バンドルが存在するサーバの IP アドレスまたはホスト名。[プロトコル（Protocol）]フィールドの設定に応じて、サーバ名は異なる場合があります。
[ファイル名（Filename）] フィールド	サーバ上のファームウェア バンドルの名前。
[リモートパス（Remote Path）] フィールド	リモート サーバ上のファイルへの絶対パス。 SCP を使用する場合、絶対パスは常に必要です。他のプロトコルを使用する場合は、ファイルがデフォルトのダウンロード フォルダにあれば、リモート パスを指定する必要はありません。ファイル サーバの設定方法の詳細については、システム管理者に問い合わせてください。
[User] フィールド	システムがサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
[Password] フィールド	サーバのパスワード。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ファームウェア パッケージをアップロードし、アップロードされたパッケージが [ファームウェアパッケージ（Firmware Packages）] タブに表示されます。

ステップ 9 （任意）ファームウェアパッケージを削除するには、ファームウェアパッケージを選択して、[アクション (Action)]、[アップロードタスクの削除（Delete Upload Task）] > をクリックします。

ステップ 10 （任意） 削除の確認プロンプトで、[OK] をクリックします。

ホスト ファームウェア パックのパッケージ バージョンの変更

サーバのファームウェア ホスト パックを変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、**[設定（Configure）]** > **[ファームウェア（Firmware）]** > **[ホスト ファームウェア パッケージ（Host Firmware Packages）]** の順にクリックします。

ステップ 6 [組織（Org）] を展開します。

ステップ 7 ファームウェアをアップグレードまたはダウングレードする必要があるサービス プロファイルまたはサーバに関連付けられているホスト ファームウェア パッケージを選択します。

（注） [パッケージバージョンの変更（Modify Package Version）] をクリックすることで、ホスト ファームウェア パッケージに対して現在関連付けられているサービス プロファイルを表示できます。これにより既存のパッケージが表示されます。

（注） サービス プロファイルが関連付けられていないサーバ上のファームウェアをアップグレードする場合は、[デフォルト（default）] ホスト ファームウェア パッケージを選択します。このオプションを選択すると、関連付けられていないすべてのサーバ上のファームウェア、またはデフォルトのホスト ファームウェア パッケージに関連付けられているサービス プロファイルがアップグレードされます。

ステップ 8 **[アクション (Actions)]** > **[パッケージ バージョンの変更 (Modify Package Versions)]** をクリックします。

[パッケージバージョンの変更（Modify package Versions）] ウィザードが表示されます。

ステップ 9 B シリーズおよびC シリーズのサーバに対しては、アップグレードしたいファームウェア バージョンをそれぞれの [ブレードパッケージ（Blade Package）] および [ラックパッケージ（Rack Package）] ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 10 [ホストファームウェアパッケージの依存関係（Host Firmware Package Dependencies）] 領域には、関連付けられているすべてのサービス プロファイル、影響を受ける ESXi ホストとその VM がリストされます。

ステップ 11 [次へ（Next）] をクリックします。

影響を受けるエンドポイントとそのステータスの概要が表示されます。

ステップ 12 （任意） 特定の影響を表示するには、利用可能なフィルタ オプションを使用します。

ステップ 13 影響を受けるサーバでESXi が実行されている場合は、[実行中のすべてのホストをメンテナンスモードに移行（Move all the running hosts to maintenance mode）] がデフォルトで有効になっています。ホストをメンテナンス モードに移行せずにファームウェア パッケージをアップグレードする必要がある場合は、[サーバが実行中でもアップグレード（Upgradeeven with running server）] をオンにします。

（注） ホストがメンテナンス モードに正常に移行しなかった場合、ファームウェア アップグレード プロセスは終了します。

（注） アップグレード後、ホストのメンテナンス モードを手動で終了させるまで、すべてのホストがメンテナンス モードのままになります。

ステップ 14 [更新（Update）] をクリックします。

アップグレード プロセスを開始します。

（注） 何らかの障害が原因でアップグレードプロセスが中断した場合、ホストのステータスを手動でチェックして、ホストのいずれかが保留中になっていたり、メンテナンスモードに移行していたりしていないかどうか確認します。

（注） アップグレード プロセス中にタイムアウト エラーが発生した場合、ホストをメンテナンス モードに手動で移行させてから、[パッケージバージョンの変更（Modify Package Versions）] ウィザードを再実行してファームウェア アップグレードをトリガーします。

ステップ 15 ファームウェアが正常にアップグレードされたら、[アラート（Alert）] メッセージダイアログボックスが表示されます。メッセージを確認し、[OK] をクリックして終了します。

一部またはすべてのサーバに対して即時に再起動をトリガーする場合、[保留アクティビティ（Pending Activities）] をクリックします。

（注） 関連付けられたサービス プロファイルに関して UCS メンテナンス ポリシーが [ユーザ確認（User Acknowledge）] または [メンテナンスウィンドウでスケジュール済み（Scheduled for maintenance window）] に設定されている場合、[保留アクティビティ（Pending Activities）] オプションが表示されます。

ステップ 16 （任意）[保留アクティビティ（Pending Activities）] ページでは、次の操作を実行できます。

a) [スケジュールされたアクティビティ（Scheduled Activities）] タブでは、スケジュールの状態を上書きし、リスト内のサーバに対して即時再起動をトリガーできます。即時に再起動するには、それぞれのサービス プロファイルに対して [今すぐ再起動（Reboot Now）] チェックボックスをオンにして [OK] をクリックします。

b) [ユーザ確認アクティビティ（User Acknowledged Activities）] タブで、アクティビティを確認したり、リスト内のサーバに対して即時再起動をトリガーしたりできます。即時に再起動するには、それぞれのサービス プロファイルに対して [今すぐ再起動（Reboot Now）] チェックボックスをオンにして [OK] をクリックします。

アップロードしたタスクの削除

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、**[設定（Configure）] > [ファームウェア（Firmware）] > [ファームウェアのアップロードタスク（Firmware Upload Tasks）]** の順にクリックします。

ステップ 6 削除するタスクを選択します。

ステップ 7 [アクション（Actions）] をクリックし、[アップロードタスクの削除（Delete Upload Task）] を選択します。

ステップ 8 削除の確認ボックスで [OK] をクリックします。

削除の成功ボックスで [OK] をクリックします。

ファームウェア パッケージの削除

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の右ペインで、[管理（Manage）][ファームウェア（Firmware）][ファームウェアパッケージ（Firmware Packages）] > > の順にクリックします。

ステップ 6 削除するファームウェア パッケージを選択します。

ステップ 7 [アクション（Actions）] をクリックし、[ファームウェアパッケージの削除（Delete Firmware Package）] を選択します。

ステップ 8 削除の確認ボックスで [OK] をクリックします。

削除の成功ボックスで [OK] をクリックします。

UCS ドメインのアクション

UCS ドメイン インベントリのリロード

UCS ドメイン インベントリをリロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページに移動し、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [ホーム（Home）] タブの [Cisco UCS Management Center] ページで、登録されたすべての UCS ドメインのリストを表示できます。

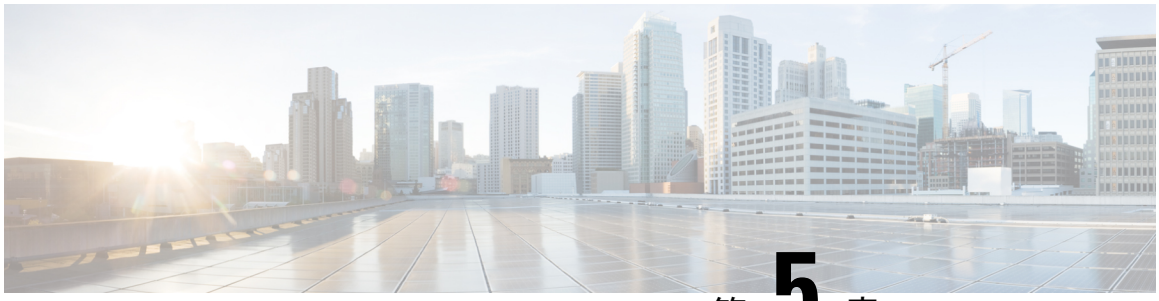
ステップ 4 ドメインをダブルクリックします。

ステップ 5 [UCSドメインのリロード（Reload UCS Domain）] を選択します。

アクションが動作していない場合には、以下の手順を実行します。

1. **[その他のオブジェクト (More Objects)]** > **[ファブリック インターコネクト (Fabric Interconnects)]** をクリックします。
2. リストから、任意のファブリック インターコネクトをクリックします。
3. **[その他のオブジェクト (More Objects)]** タブを選択します。
4. **[ドメイン (Domain)]** を右クリックし、**[UCS ドメインのリロード (Reload UCS Domain)]** を選択します。

UCS ドメインのインベントリをリロードします。



第 5 章

Cisco UCS Provider for Proactive High Availability （HA）の使用

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS Provider for Proactive HA （37 ページ）
- Cisco UCS プロバイダーの登録 （38 ページ）
- Cisco UCS プロバイダーの有効化 （39 ページ）
- Cisco UCS プロバイダーの登録解除 （40 ページ）
- Cisco UCS 障害状態の変更 （40 ページ）

Cisco UCS Provider for Proactive HA

Cisco UCS Provider for Proactive HA 機能を使用すると、ESXi ホストを実行しているサーバの健全性をシステムで評価することができます。サーバが正常か、中程度、または著しく性能が低下しているかどうか評価します。重大度がクリティカルまたはメジャーの障害についてシスコが承認した事前定義済みのリストに含まれる障害が発生すると、vCenter に報告されます。Proactive HA 機能とプロバイダーの詳細については、VMware のマニュアルを参照してください。

前提条件とユーザ権限

Cisco UCS Provider for Proactive HA を使用するには、次を有効にすることをお勧めします。

- vSphere DRS
- Proactive HA

Cisco UCS Provider for Proactive HA を使用するには、次の権限が必要です。

- **ヘルス更新プロバイダー**
  - 登録
  - 登録解除
  - 更新

- ホスト
  - インベントリ
    - クラスタの変更
  - 設定
    - 検疫
    - メンテナンス
- ストレージ ビュー
  - 表示

Cisco UCS プロバイダーの登録

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。

ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページから、Cisco UCS プラグインを起動します。

ステップ 3 [Proactive HA登録（Proactive HA Registration）] タブをクリックします。

ステップ 4 [Cisco UCSプロバイダーの登録（Register Cisco UCS Provider）] 領域で、次を入力します。

名前	説明
Username	vCenter のユーザ名を入力します。
[パスワード（Password）]	vCenter のパスワードを入力します。

（注） Cisco UCS プロバイダーの vCenter 資格情報を更新する場合は、新しいパスワードを入力し、[更新（Update）] をクリックします。

ステップ 5 [登録（Register）] をクリックします。

Cisco UCS プロバイダーは、クラスタ内のすべてのホストを管理するドメインが登録されているときに表示されます。

重要　登録済みの Cisco UCS Manager プラグインをアップグレードするには、Cisco UCS Provider for Proactive HA を登録解除し、登録済みプラグインをアップグレードして Cisco UCS Provider for Proactive HA を登録します。Cisco UCS プロバイダーの登録を解除する方法、およびプラグインをアップグレードする方法の詳細については、Cisco UCS プロバイダーの登録解除 （40 ページ）およびCisco UCS Manager Plug-In for vSphere HTML Client のアップグレード （6 ページ）を参照してください。

Cisco UCS プロバイダーの有効化

始める前に

- vSphere DRS の有効化
- [vSphereの可用性（vSphere Availability）] で、Proactive HA を有効にします。
- クラスタ内のすべてのホストを管理するすべての UCS ドメインを登録します。ドメインを登録するには、次を参照してください。 UCS ドメインの登録 （6 ページ）

手順

ステップ 1　**[ホストおよびクラスタ（Hosts and Clusters）]>[クラスタ（Cluster）]>[設定（Configure）]>[vSphereの可用性（vSphere Availability）]>[プロアクティブ HA（Proactive HA）]>[編集（Edit）]** の順にクリックします。

ステップ 2　[Proactive HAの障害と応答（Proactive HA Failures and Responses）] タブで、次を入力します。

名前	説明
[自動化レベル（Automation Level）] ドロップダウンリスト	ホストで障害が発生した場合、VM を自動または手動で移行するかどうか。 次のいずれかになります。 • **[手動（Manual）]** • **[自動（Automated）]** [自動（Automated）] レベルを選択することをお勧めします。

名前	説明
[修復（Remediation）] ドロップダウンリスト	障害の重大度に応じて実行されるアクション。 次のいずれかになります。 • すべての障害に対して検疫モード • 中程度の障害に対しては検疫モード、重大な障害に対してはメンテナンス モード（混合） • すべての障害に対してメンテナンス モード 混合モードを選択することをお勧めします。

ステップ 3 リストから、[Cisco UCSプロバイダー（Cisco UCS Provider）] チェック ボックスをオンにし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS プロバイダーの登録解除

手順

ステップ 1 vSphere HTML クライアントを起動します。
ステップ 2 [ショートカット（Shortcuts）] ページから、Cisco UCS プラグインを起動します。
ステップ 3 [Proactive HA登録（Proactive HA Registration）] タブをクリックします。
ステップ 4 [登録解除（Unregister）] をクリックします。

Cisco UCS 障害状態の変更

始める前に

- vSphere DRS の有効化
- [vSphereの可用性（vSphere Availability）] で、Proactive HA を有効にします。
- クラスタ内のすべてのホストを管理するすべての UCS ドメインを登録します。ドメインを登録するには、次を参照してください。 UCS ドメインの登録 （6 ページ）

手順

ステップ 1 **[ホストおよびクラスタ（Hosts and Clusters）]** > **[クラスタ（Cluster）]** > **[設定（Configure）]** > **[vSphereの可用性（vSphere Availability）]** > **[プロアクティブ HA（Proactive HA）]** > **[編集（Edit）]** の順にクリックします。

ステップ 2 **[プロバイダー (Providers)]** タブのプロバイダーのリストから、**[Cisco UCSプロバイダー（Cisco UCS Provider）]** チェック ボックスをオンにして、**[編集（Edit）]** をクリックします。

Cisco UCS プロバイダーの障害状態のリストが表示されます。

ステップ 3 クラスタ内のホストで障害状態をブロックするには、障害状態と関連付けられているホストのチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 クラスタ内の現在および将来のホストをすべて選択するには、[クラスタレベル（Cluster-level）] チェック ボックスをオンにします。

ステップ 5 [OK] をクリックします。